

扁桃膿栓症を考える

笠井 創*
Hajimu KASAI

私の扁桃歴

子どもの頃から扁桃炎と中耳炎を繰り返す、発熱と関節痛で起き上がれないことも度々でした。小1の夏休みに、町の耳鼻咽喉科医院で手術を受け、扁桃摘したものだと思っていましたが、アデノイド切除だけであったと知ったのは後年のことです。

耳鼻咽喉科医になってからも、年に何度も、無理をしたとき、きまって扁桃炎を発症し、口蓋垂は充血して垂れ下がり、いつも抗生物質と鎮痛薬のお世話になっていました。何よりも困ったのは、抗生物質を飲み続けていても、その後必ず併発してくる副鼻腔炎と後鼻漏による咳が1カ月以上も続くことでした。当時、扁桃摘は局麻が普通で、夏休みには耳鼻咽喉科病室にアデレクの子供が大勢入院してきました。いつか機会を狙って自分の扁桃摘をと思っていましたが、なかなか都合がつきません。

34歳で医長として赴任した出張病院先で、大学の鈴木晴彦先輩にお願いして、扁桃摘していただきました。口を開けるのは得意でしたし、手際良い手術で何の苦もなく終了し、すぐ勝手知った病室に戻り、優しい病棟看護婦さん達に見守られ、ぐっすり眠ることができました。今では扁桃摘はほとんど全麻で行うのですが、自分にとっては局麻の方が安心で受け入れやすいものでした。入院のまま、

2日後から外来診療や手術に従事しました。

思い知ったことがあります。朝食にオレンジジュースが付いてきたのですが、一口飲むや激的な痛みが起こり、その場にうずくまってしばらく身動きできませんでした。今ではそのようなことはないと思いますが、のどの手術の後に酸味、特にオレンジジュースはいけません。牛乳が最も刺激がなく、安心して飲むことができます。術後3日目に、夜中に病室を抜け出し、外来の冷蔵庫からビールを出して飲みました。ビールの炭酸も刺激になりますが、オレンジジュースの酸味ほど酷いものではありません。自分の不摂生で術後出血を起こしては、申し訳ありませんから、少しずつ慎重にいただきました。

術後2週間くらいで、嚥下痛は気にならなくなったと記憶しています。ただ、半年くらいはビールを一気に飲むと、鼻へ逆流してしまい、扁桃をいかに綺麗に摘出しても、軟口蓋の挙上と鼻咽腔の閉鎖には一時的に影響が出ることを知りました。術後は大変快調で、風邪をひくことも減り、副鼻腔炎も起こらなくなり、酒とバラの日々を過ごせるようになりました。後から気がついたことですが、それまであった朝一番の口の中の粘り感、生臭い口臭がなくなりました。それまで、扁桃を指で触ったときなど、嫌な臭いがすることは解っていましたが、扁桃が口臭の原因になることが身をもって確認できました。

Key words: 扁桃陰窩、膿栓、くさい玉

* 笠井耳鼻咽喉科クリニック

〔〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-29-14〕

のどの臭い玉

以前、阿川佐和子さんが週刊誌上で隔週に

